津市立南が丘小学校だより

かがやく未来

2024. 11. 14　NO.37

占いは　いずれも吉と　木守柿

宇多　喜代子（俳人）

晴天の日に車を運転していると真っ赤に色づいた柿の実がたわわに実っている景色をみかけます。このたわわに実った柿がすべて収穫されたあと、たったひとつ枝に残す風習があります。これは「木守柿」と呼ばれ、小鳥たちへのおすそ分けとも、翌年、豊かに実るようにとの祈りをこめて残されているとも言われています。人間も自然と共生している一員として小鳥たちへの思いやりや自然そのものに対する感謝の気持ちが表れている行為として素敵だなと思いました。「木守柿」には次のようなエピソードがあります。後に千利休が名作と見立てたと伝えられる七種の茶碗の中から、お弟子さんたちに好きなものを選び取らせたとき、１つだけ 残った茶碗がありました。利休はそれを、木守柿のように１つだけ残ったという意味で「木守」と名づけたと言われています

１１月も中旬となり、今年度も１年の折り返し地点を過ぎました。秋は春に種を蒔いた植物が芽を出し、成長し、花を咲かせ、実をつける時期です。学校では２学期、運動会や遠足、社会見学・修学旅行などの行事や日々の授業等、様々なことに取り組んでいます。今年度も残り４ヶ月余。学校として子どもたちの心の中に来年、１人１人が豊作になるようにという願いをこめて、どんな「木守」、いや「能力」「自信」を残してあげられるか…担任をはじめ職員全員で後半も取り組んでいきたいと思います。

☆★☆朝、坂の上で…★☆★

毎朝、坂の上で子どもたちの安全を見守っていると、校門前の横断歩道を渡ってくる子どもたちがよく見えます。１学期に「停まってくれてありがとう」運動の指定校としてテレビにも紹介されましたが、今では少しずつですが、車の運転手さんに向かって、頭をさげている姿をみかけるようになってきました。「左右を確認する」「感謝の気持ちを伝える」という２つの点からも大切な運動であると思います。休日にお子さんと一緒に横断歩道を渡る機会がありましたら、またお話をしていただけますと有難いです。

もう一つ。１１月に入り、朝の気温が急激にさがり、それまでは半そでシャツで子どもたちを渡らせていましたが、朝、肌寒かったのでスーツ・ネクタイ姿でいると「今日、普段と違う」「今日、何かあるの？」「かっこええなあ」などたくさんの子どもが声をかけてくれました。ちょっとした？変化に子どもたちが気づいたことに驚くとともに、逆に子どもたちの小さな変化に気づいているだろうか…特に自分からアピールしてこない子どもたちのことを。少しそんなことも頭をよぎりました。

★☆★☆★★☆★☆★★☆★☆★★☆★☆★